

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.23	-	-	<b>3.0</b>
1.1 騒音		<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		<b>1.0</b>	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	サッシ遮音性能T-2	<b>5.0</b>	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.1</b>	0.44	-	-	<b>1.1</b>
2.1 室温制御		<b>1.3</b>	0.50	-	-	
1 室温		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.17	-	-	
4 ゾーン別制御性		<b>1.0</b>	0.33	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		-	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	内装材はF を全面的に使用	<b>4.0</b>	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40	-	-	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	建物全体のコンセプトや機能が明確であり、事前に検証を行っている	<b>5.0</b>	1.00	-	-	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.31	-	-	<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-	
1 耐震性	1.25倍の耐震性能	<b>4.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	有孔合板30年、フローリング60年	<b>5.0</b>	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上	<b>5.0</b>	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-	
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA対応	<b>4.0</b>	0.20	-	-	

	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.3</b>	0.29	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>4.0</b>	0.31	-	-	
1		階高のゆとり		-	-	-	-	
2		空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.17で、空間のフランチングの自由度が高い	4.0	1.00	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	0.31	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	0.38	-	-	
1		空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2		給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3		電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4		通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5		設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6		バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2		敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>			建物の断熱を適切に配し、外壁や窓を通しての負荷に配慮	<b>4.3</b>	0.30	-	-	<b>4.3</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
2.1		自然エネルギーの直接利用	天窗を設置し自然光や自然換気を利用、ケールチューブの採用	4.0	0.50	-	-	
2.2		自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>			高効率設備を中心に採用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	<b>5.0</b>
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	ERR=58.1%	5.0				
		集合住宅の評価		3.0				
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
4.1		モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2		運用管理体制	運用・維持・保全の基本方針を定めている	4.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-	<b>3.4</b>
1.1		節水	衛生器具は少ないが、節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.0</b>	0.63	-	-	<b>3.0</b>
2.1		材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4		非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法、PS・EPS内配管	5.0	0.24	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.6</b>	0.22	-	-	<b>3.6</b>
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2		フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-	
1		消火剤		-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材の採用	5.0	0.50	-	-	
3		冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			LCCO2排出量低減に配慮している	<b>4.8</b>	0.33	-	-	<b>4.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2		温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3		地域インフラへの負荷抑制		<b>3.6</b>	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3		交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制	ゴミ量の推計や、有価物の回収を計画	5.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1		騒音		3.0	1.00	-	-	
2		振動		-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1		風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2		砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3		日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たし、屋外広告物がない	5.0	0.70	-	-	
2		壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	